

# 久留米の自然

久留米の自然 116号

2012年9月1日

イズハハコ キク科

撮影日 2012年6月9日

撮影場所 高良山林道周辺

撮影者 角 正博



全体像



軟毛の密生



頭花

## イズハハコ

橋田 沙弓

福岡県レッドデータブック 2001「福岡県の稀少野生生物」によると、イズハハコは絶滅危惧ⅠA類、学名は *Conyza japonica* (Thunb.) Less である。分布は(県内)現状不明、(県外)本州(関東地方以西)~沖縄、(国外)中国、マレーシア、インド、アフガニスタンである。しかし、黒岩展子さん(当会会員)によると、高良山の林道沿いに生息しているという。

そこで、平成24年6月9日に高良山の林道沿いに進むと、開花期を迎えたイズハハコに出会った。ワタナと牧野新日本植物図鑑には記載、別名ヤマジオウギク、イズホウコとも。県内では林縁道路沿いや水田石垣などに、極めてまれにみられる。八女市(旧黒木町)、筑紫野市などに自生記録

があるが現状不明であるという。しかし、高良山の記載はないが以前から確認されている。

茎は高さ20~50cm。細長でしばしば先端で分岐する。葉は下部でロゼット状に集まり、ぎざぎざがあり基部は茎を抱く。長さ5~13cm、幅1~4cm、茎ともに全体に、灰白色の軟毛が密生する。4~6月、茎は直立し、頭花(とうか)は茎の先に密にかたまつてつき、汚白~赤褐色で花冠は毛管状、花後、長さ約4.5mmの冠毛が綿のように集まって見えるので綿菜(わたな)の日本名がある。

福岡県レッドデータブック2011「福岡県の稀少野生生物」でも、高良山のことは記載されていない。当会としても、イズハハコが絶滅しないように見守っていききたい。

**久留米市の蝶 48****メスアカムラサキ****国分 謙一**

迷蝶（偶産蝶）といわれ奄美大島以南では多く見られるため日本の蝶となっていますが、台湾から沖縄のあいだで棲息の境界が変動しているようではっきりしていません。遠くまで飛ぶことができ、発見される事が多い蝶です。雄は黒色に白い大きな丸い紋があるので遠くから見ても間違えることはありません。

他の迷蝶に比べ九州では古くから多く発見されているのに、久留米市で冬を過ごすことができる蝶となるのは、たぶん遅い方ではないかと思っています。

幼虫の食草はスベリヒユで近所の畑などに多くあり、（「主婦の友」の戦争中の号に調理方法の紹介記事がありました。）もしかしたら幼虫を発見できるかもしれません。

**福岡県に関する事項****1、発見のいきさつ**

昆虫を研究している方にもあまり知られていないのですが、発見の経緯に福岡県の初期の著名な昆虫研究者の二名が関わっていました。北九州出身の矢野宗幹氏「日本昆虫学会創設の中心人物」が英彦山の宮司で男爵であった高千穂宣麿氏「九州大学英彦山生物研究所及び標本を寄贈した人物、このため英彦山が昆虫研究のメッカとなった」の標本の中に、熊本市の花岡山で中川久和氏が採集されたのを見つけ、当時の蝶の研究者に報告され、1905年（明治38年）にメスアカムラサキ「雌が赤いタテハ」と名付けられました。

**2、久留米市が最初**

久留米市では1949（昭和24年）年8月7日に篠山城で小学生が採集したのが最初で、これが福岡県での最初となりました。その後は時々発見されるようになり、特に1964年は高良山で10頭ほ

ど発見されました。

**雌は擬態している？**

雄と雌は模様が別の蝶としか思えないほど違っています。雄は白い紋の周辺が妖しく紫色に光り、雌は先端や外側に黒色の模様がありますが大部分は赤色です。このために雌はカバマダラに擬態している例として、図鑑に記述されていることがあります。飛び方も似ていると言われているようですが、私が雌を見たのは今までに1回だけで、その時はカバマダラよりも早く飛んでいて違いが判りました。久留米市で雌を見るのは非常に難しいので、観察するには沖縄に行かなければなりません。貴方の観察の結果が図鑑の記述を変えるかも知れません。

**発見は学生の活躍**

私が昆虫を始めた1960年頃は、夏休みの自由研究などで昆虫や植物の標本を提出する者は多かったのですが、近年は非常に少なくなりました。今まで久留米市で発見したのは小・中・高生徒がほとんどです。温暖化で飛来は多くなったと思われませんが、昆虫をする学生が減り発見が少なくなりました。

**久留米市での観察**

難しいのですが、8月～10月に近所の小高い場所に行けば、雄を見ることができるとも思われます。今までに発見されたのは、篠山城跡、合川町、宮の陣町、国分町、吉見岳、高良山等ですが、ほとんどはその周囲より少し小高くなった場所（特に神社仏閣がある所）です。雄は縄張りを持ち、飛び立ってもゆるやかに旋回し同じ所に戻って来るので、数日後に行っても見られます。私は毎年久留米市のどこかに来ているのですが、昆虫の研究者が少ないので見過ごされているものとおもっております。

発見された方のご連絡をお願いします、貴重な記録となります。（写真または標本が必要です）

## 郷土の樹木(18)

## モチノキ

## 猪上 信義

モチノキ科の常緑高木、樹高10m前後、樹皮は滑らかで白味を帯びます。葉は厚く、楕円形で、先は短く尖り、長さ4~7cm、幅2~3cm、鋸歯はなく(若い枝の葉には出る)、両面無毛。雌雄異株、花は4月頃、花弁は黄緑色、果実は卵状球形で直径約1cm、赤く熟し(稀に黄熟するキミノモチノキもある)、中に4個の種子がある。日本の東北地方南部から琉球列島及び朝鮮半島南部に自生し、常緑広葉樹林の主な構成種です。高良山の天然林内でも普通に見られ、稀に直径50cm近い大木もあります。

材は白色で緻密、比重は0.85とかなり重く、年輪はわかりにくい。材はろくろ細工や印材に適し、樹皮からは鳥もちを採取しました。これは夏の土用頃樹皮を剥いで、2~3ヶ月水に浸し、後に臼で搗いて、清水で洗い流し、粘り気のあるゴム質を取り出したもので、昔は小鳥の採取用やハエトリ紙、バンソウコウなどに用いました。これが採られたのはモチノキの他、タラヨウ、ヤマグルマなどです。

また赤い実を鑑賞するため庭園木としますが、クロガネモチほど実を付けず、あまり一般的ではありません。モチノキ科に共通して葉や茎にルビロウカイガラムシがつきやすく、その排出物にすす病が発生して、黒くなることがあります。

おなじくモチノキ科に共通した特徴として、葉に火を当てたり、葉裏を強く押さえる(薄い葉では現われにくい)と、その部分が茶褐色に変色します。これは加熱や圧迫などで酸化酵素が働いたもので、死環または環紋と呼ばれますが、モチノキ科特有でなく、シャリンバイ、トベラ、オガタマノキ、モッコク、タイミンタチバナなど厚手の葉を持つ常緑樹の一部にも見られます。

漢字では糯の木と当てますが、文学作品などでは冬青とされることが多いようです。「大和本草」にも細葉冬青に(ナナミノキとふりがなをつけて)

紹介されていますが、記述や絵をみるとソヨゴやナナミノキと混同されていたようです。

高良山では斜面下部や溪流沿いの林内には、同じ科のシイモチという小高木も見られます。これは名前のおり葉がシイノキに似てやや薄く、長さ4~7cm、幅1.5~3cmで先が長く尖り、縁に浅い鋸歯があります。果実は6mmくらいで、九州全域の他山口、愛媛などの暖帯下部に自生し、中国中部にも分布しています。

ナリヒラモチはこのモチノキとシイモチの雑種とされていて、葉にまばらに鋸歯があり、果実の直径は8mm程度で、両種の間隔的な大きさです。これは故初島住彦博士が九州大学で助手をされていた当時、野河内溪谷(現福岡市早良区)で発見され、1936年に新種として記載されたもので、ここが基準標本産地(新種記録のとき、基準となる標本が採集された場所)となっています。その後那珂川町南畑、上陽町納又滝、中間市垣生公園(他県では佐賀、長崎、宮崎)などで発見されています。和名のナリヒラというのは『鋸歯の有無を雄と雌になぞらえ、その中間にあることから』と、初島先生から伺ったことがあります。

高良山にはモチノキ・シイモチともかなり多く自生しているので、ナリヒラモチが存在する可能性も高いと思われます。ここに足を運ばれる方は注意されて、是非見つけてください。



モチノキの葉



## 高良川流域のキノコ(その18)

角 正博

前回はウロコタケ科 *Stereum* (キウロコタケ) 属について述べました。今回は、まずタチウロコタケ科 *Stereopsis* 属のハナウロコタケからです。

33. ハナウロコタケ *Stereopsis burtianum*

高良川中・下流域の公園などの平地では見られませんが、上流域の高良山系では、高良山や明星山、その他の山林内の遊歩道や山道の路傍の地上、または切り通しの赤土の土崖などにかかなり普通にみることができます。高さ1~2cmでいどの柄の先に、傘径0.5~1.5cmの浅い漏斗状のかわいらしい傘をつけます。縦に割ってみると肉は白く、厚さも0.5mm程度の薄い傘です。柄は中心性からやや偏心性です。ぽつんと孤生することは少なく、むしろ多数群生していることが多いようです。多数群生するために、押し合いへし合いして、しばしば癒着していたりします。小さなキノコなので、孤生していても、山道ではほとんど見過ごしてしまいます。だから群生して存在感をアピールしているのでしょうか。傘はほぼ円形で革質、傘の縁は歯状になっています。ルーペで拡大してみると、このように傘の縁が歯状であるために、かえって漏斗状の傘は花のように見えます。ルーペで拡大すると、なるほど確かにこれは「ハナ」かもと、肉眼で見る以上にハナウロコタケの名前に合点がいきます。それはまた鮮やかな色の普通の花弁と異なり、淡褐色から褐色の、光沢を帯びた放射状の繊維紋や不鮮明な環紋の傘を拡大してみえる渋い色調の、古民家のような素朴な魅力をもった花です。山道でよく出会う、小さくありふれたキノコですが、ぜひルーペで拡大して観察してほしいと思います。



ハナウロコタケ

## 第31回くるめ緑の祭典グリーンキャンペーンにおいて大木武彦氏が緑の貢献者表彰

橋田 沙弓

平成24年5月5日(こどもの日)午前10時、鳥類センターにおいて、第31回くるめ緑の祭典グリーンキャンペーンが開催されました。その緑の貢献者4団体と個人表彰8名の部で当会事務局の大木武彦氏が「久留米の自然を守る会・クリーンパートナー・森林ボランティアの会員として昆虫等の自然観察指導及び自然保護啓発活動を長年に亘り実施」ということで、久留米市長より賞状が授与されました。大木氏は昭和48年に会員になられ、行事に参加されてこられました。

平成18年の定年退職を機に活動を活発化され、福岡教育大付属小学校、くるめウス水辺の自然観察会、久留米緑の市民会議・緑のハイキング等で昆虫を専門として自然観察指導に従事されてこられました。

平成14年より、久留米市クリーンパートナーに個人登録し、上津の浦山公園を担当。樹木や施設の破損、不法投棄等を久留米市環境部環境政策推進課、公園土木課に通報するとともに、公園内の生き物(昆虫、鳥類、両生類、爬虫類等)の生態観察をし、生態写真160種余を上津コミュニティセンター文化祭に展示発表して、自然保護の啓蒙活動をされています。平成22年から久留米市森林ボランティアに登録し、高良山車道、耳納スカイライン、高良川水車谷、一ノ瀬、杉谷道路沿いの無許可伐採、自然災害、不法投棄の巡回監視を行い、久留米市農政部生産流通課に通報されています。これからも頑張って続けて欲しいと期待されています。



表彰された大木武彦氏

## 生き物に魅せられて その54

## ヤモリの巻 松永紀代子

2010年6月、庭のコナラの細い幹にヤモリが張り付いていた。この木は、昨年から樹液フツフツと出て、様々な昆虫がやってくる。そんな昆虫を狙ってヤモリが何匹もついていた。ああ、今日もいる、と11時近くのじっとしているヤモリを見上げた。と、上から伝ってたれていた樹液をペロン。もう一度ペロン。ええ！樹液も舐めるの？今の時間は寝てるんじゃないの？そしてまたじっと動かなくなった。スズメバチが来ると羽音でもぞもぞ。そしてまたペロン。

この場所に来る昆虫は樹液狙いなものだから、当然樹液まみれになっているものも多い。そんな昆虫を捕食しているうちに、樹液そのものを舐めることを覚えたのだろうか？

ただのパンよりジャムパンだ。たまには、ジャムだけぺろりと舐める。いや、樹液はアルコールというべきか。昼間からお酒をちびりちびり。そんなことかもしれない。

ひととき 動物笑い話 その60  
手刈り 米田 豊

オーストラリアのある羊牧場の夫婦の会話。「経験不足の牧夫達が多く、バリカンでヒツジが傷だらけだ」「それで、隣の牧場では最新の技術を導入したそうね」「確か、毛の成長を止める物質を注射し、その後体をネットで包んでおくと、1ヶ月後に皮膚との間に分離層ができ、その隙間に手を入れて拵げていくと、毛が皮膚から離れてヒツジは丸裸になるとか」「そうよ、毛刈りではないの」「この技術はアルパカやヤクなどに応用できるかも」「だけど、あまりにも見事な丸裸で風邪でもひかれたらどうするの。空調設備のある畜舎があれば安心なんだけど」「確かに、高山にすむアルパカやヤクではなおさらだね」「体形通りに取った一体分の毛でまずぬいぐるみを作り、風邪をひいたら着せるとか」「あほな！それにしても逆に確実に毛が生える薬が欲しいな」と薄くなった頭をなでる夫。  
※TV 放映されたもので、日本の企業が開発した割安の薬品が普及に貢献している。

## 経験したことのない豪雨

## 高山 美子

2012年 7月14日午前 9時過ぎ、突然黒雲が帯状に北西の脊振山から沸き立ち、真っ黒く天を流れて 北東の古処山方向に連なった。

朝倉市の辺りで大雨が カーテン を下ろした如く降っている。

その連続が約二時間、猛烈な黒雲は走り続け経験したことのない豪雨となった。

筑後川が警戒水位を突破し氾濫しているとニュース に出た。

上空では ヘリコプターが低空飛行し 旋回しながら取材活動をしている。恐怖が走る。

堤防が切れるかも知れない！ 非常事態に備え準備しなければ。

まず 水と非常食や貴重品を二階に上げる。筑後川の様子を調べに車で廻るとこれは大変だ！片の瀬橋の下 桜の樹がある公園は泥水やゴミが濁流となり川幅は驚くほど広く 今まで経験したことのない 底知れぬ恐怖が走る。

筑後川と桂川 小石原川の合流地点が 溢れ浸水している。道路はもう沈み 田畑は 泥海に。必死に 雨が止む事を天に祈る。

19:30 薄暗くなる筑後川を見に行く。水位が少し下がってはいるが 氾濫している 床島や西原方面が 気掛かりな為両筑橋を渡り 右岸を下る。消防団が浸水した村中より川へ三台の 消防車で ポンプアップしているが 気の遠くなる水の量である。眠られない夜を過ごす。



増水する筑後川 宮の陣橋にて

7月3日 杉本千穂氏 撮影

## 高良川流域の地衣類(その6)

角 正博

前回に続いて、高良川流域の地衣類の生育環境の概要をみてみましょう。

## (2) 山麓の常緑広葉樹林の林縁の葉上

高良川流域にあるコジイ、アラカシ、ヤマモモ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹林の暗い林内では、これらの樹幹に生育する地衣類はあまりみられません。ただし、林縁の明るい場所ではモジゴケ属が生育しています。むしろ、ツバキ・ヒサカキなどの照葉樹の生葉上には、常緑広葉樹林の暗い林内で日照を求めて葉上に進出した、葉上生地衣のアオバゴケ類が生育しています。これらは、暗い熱帯雨林や照葉樹林という環境に適応した地衣類と考えられています。しかし、分類学的な研究があまり進んでいません。

(3) 日当たりがよい着生基物が多く存在する社寺や墓地および公園に植栽されたサクラ、ウメ、ケヤキ、カエデ、ツバキ等の樹幹、あるいは社寺や墓地および公園の日当たりのよい石碑や石垣、コンクリート建造物社寺や公園に植栽された樹木の樹幹は、暗いスギ・ヒノキの植林地と異なり、林道に植栽されたサクラ並木に近い明るい環境といえます。こうした環境には、林道沿いに植栽されたサクラ並木と同様に、サクラやウメの樹幹にはヒカゲウチキウメノキゴケ、クズレウチキウメノキゴケ、マツゲゴケ、ウメノキゴケ、コフキジリナリア、モジゴケ属、コガネゴケ、ロウソクゴケ、レブラゴケ属などがみられます。公園のケヤキ、モチノキ、アラカシなどの樹幹にはさらにレカノラ・メガロケイラ、ムカデゴケ類、カシゴケなど、カエデ類の樹幹にはさらにコナイボゴケ、オリーブトリハダゴケなど、ツバキ類の樹幹にはさらにチクビゴケ(マメゴケ)、アオゾメサネゴケ、アミモジゴケなどが加わります。



コフキジリナリア

## 例会報告

## 第396回例会

## 筑後川春の野草を愉しむ会

橋田 沙弓

3月25日(日) 気持ちのよい春風が吹く快晴のもと、第396回例会として筑後川春の野草を愉しむ会がくるめウスで開催されました。

50名の定員に50名の参加者があり9時頃から1時間高良川下流で自然観察を行いました。セリ、菜の花、ヨモギ、ウシハコベ等採集してくるめウスに戻ってきました。くるめウスのテラスではテントの下で大鍋にお湯が沸いていました。前日に準備した野草50人分が洗って整えられ、湯がいたり、細かく切られて、野草の料理が始められて、事前に用意した調味料を使い、お米は炊かれてヨメナご飯、セリご飯、ナズナご飯など。野草料理のメニューに基づいて、野草の天ぷら、野草のコロッケ、ヨモギ練りこみだご汁、野草の和え物、ヨモギだんご、野草ヤキソバ、ハコベグリーンジュースが作られ、12時半頃ヨモギゼリー等添えられて皆んなで頂くことが出来ました。皆さんから要望されたことは、料理するのに、助手を付けてくださいということでした。採集班、調理班、設営班など分かれてやることで、チームワークがしっかりとれてうまく出来たと思いました。今年も詳しいパンフレットを作成しました。前日にスタッフ一同野草を採集したのが大変ですが良かったと思いました。本当にご苦労様でした。参加者から多数の感想文を頂きました。

## 感想文

寺町 松原文子

5回ぐらい参加しています。毎回たのしくすごしています。

合川町 荒木由紀子

白和え、椿の天ぷら、だご汁、みんな美味しかったです。

**本町 荒巻須賀子**

毎年この会を楽しみにしております。野草の名前をなかなか覚えられません。食べれる野草を教えてください。来年もよろしく願います。

**いしばしひろき**

さいしょくさはおいしくないとおもったけどおいしかった。よもぎゼリーが一ばんおいしかったです。

**田主丸町 中野まり子**

初めて参加しました。野草料理おいしかったです。何もかも新鮮味で次回もと思いました。

**大野城市 むく本ゆうせい**

いろいろな野草を見つけて食べれる草、食べれない草がわかってよかったです。

**東櫛原町 武富洋子**

楽しく料理しました。味もおいしかったです。

**鳥栖市 桑野晃成**

くさは、おいしくてまた食べたいです。そのなかで一番おいしかったのはよもぎゼリーです。また食べたいです。

**田主丸町 中島邦子**

やっと念願がかなって始めて参加が出来ました。「つばき」の花の蜜天ぷら始めてでとても美味しかったです。本当に有り難うございました。野菜の名前、みんな付いているのですね。見た事ある草でも知らない名前、少しは覚えたかなっつっ

**田主丸町 武末閃子**

近所の友達に誘われて、初めての参加でしたけど川辺を歩き乍ら色々と薬草の知識がよりくわしくなりその後皆さんと一緒に食事作りもとても楽しく貴重な体験を有難うございました。来年も又

是非参加させて戴きたく思います。クレソンの白和えも美味しくいただきました。

**通東町 米田ウキ**

始めて出席させて頂き、たのしい思い出が出来ました。春の野草には大変興味がありましたので、とっても楽しいひとときでした。特に椿の花の蜜には感動しました。ヨモギのゼリーも心に残った味でした。

**東櫛原町 早田フミエ**

焼そばはおいしかった。

**八女市 篠原真理子 陽世**

毎年「ババール」を見て気になっていました。やっと今年参加できました。娘がとても楽しみにしていて、必死に！？野草を摘んで回りました。普段「ままごと」の食材になっていた草が、本物の食材になり大感激です。娘はコロッケと青汁(?)が気に入ったようです。春休み中に、家でもやってみたいと思います。

**善道寺町 西 美砂子**

自然散策から始まり、自分達での調理に至るまで充実した内容でとても楽しめました。日頃、ながめている草花も手を加えれば料理になることが子ども達にとってはとても為になったようで何でも“おいしい”と言って食べていました。よもぎのだんご汁、からすのエンドウのコロッケ、菜の花ごはん、etc 春の香りを見て味わって、五感で感じる事が出来ました。貴重な体験をありがとうございました。

**野中町 田中恭子**

野草を食べる会。材料の調達沢山ありがとうございました。10数種も自然の食物は珍しかったです。橋田先生は本当に今日はお気づかい大変だったと思います。もう1人助手の方がおられた方がと思いました。



**第397回例会****高良山・樹木の名札付けと豚汁会****河内 俊英**

今年の名札付けは、五月晴れのなかで小学生も含め参加者16名で高良大社・奥ノ院コースで行われました。参加者の中には、はじめて通る道だったヒトもおられ、楽しい名札付けになりました。橋田さん達が、例年どおりあらかじめ調査しておいた遊歩道沿いの樹木、約50種について、科と樹種、花期を記入した約150枚の木札を取り付けました。このコースは、近年散歩コースとして多くの方が利用していますので、有意義に利用いただけるでしょう。北面コース遊歩道は、今年の梅雨の豪雨で若干の被害が出ましたが、奥ノ院コースは問題なく無事でした。橋田さん・中野さんのおかげでおいしい昼食会もあり、子供たちも豚汁を何杯もおかわりしていました。

最後に諸々準備いただいた橋田さんと久留米市生産流通課に感謝します。

感想文

**合川町 西木まゆみ**

札の記載方法が初め分からなかったのですが、記載例を資料につけていただくと、誰でも同じように書けると思います。

**西町 五島久嗣**

タブノキが雄大だった。気持ちいい散策だった。

**西町 五島七海**

はじめて見た木がいっぱいでした。とつてもたのしいさんぽだった。

**山川町 中野将希**

いろいろな木や草の名前がわかった。

**久留米市 金吉純華**

はじめて参加して自然の山を見て、いろんないろいろの植物を見て、勉強になりました。また、今後も、毎年くるように続けたいです。

**第398回例会****キノコ観察会とキノコ汁会****丸山由紀子**

6月24日(日)降りしきる雨の中、キノコ観察会を行いました。梅雨時のため毎年お天気が心配なのですが、今年は止みそうにない雨の中、それでも「決行」となりました。雨にも負けず集まった参加者のみなさんは、総勢14名で、金子周平先生のご指導のもと、キノコ探索にスタートしました。雨の中あの人たちは一体何をしてるんだろう・・・と思われたでしょうが、みなさんとても熱心で次々とキノコを発見していきました。条件が悪くても、けっこう見つかるもので、全部で26種のキノコを観察することができ、2人の子どもたちも最後まで元気よくがんばってくれました。フェアリーリング(妖精の輪)と呼ばれるキノコの行列も見ることができました。何気なし見ていると気づかないけど、その気で探すと、ここにもあった！と見えてくるのがキノコ観察のおもしろさだと思います。色も形にもおもしろい様々で、まだ人間が知らない秘めたパワーを持っている(かもしれない)キノコの魅力を改めて感じる事ができた観察会でした。

観察会終了後、上津クリーンセンターに移動しておいしいキノコ汁とキノコ御飯を味わいました。

感想文

**東楯原町 牟田健助 幸佑**

きのこ汁がおいしかったです。楽しかったのでまた来たいです。



雨の中でのキノコ観察会



## 2012年度久留米の自然を守る会高良台きのこ 観察会報告

金子 周平

2012年度も6月24日に高良台で行われました。雨が降り続く中、開催されましたが、温度が足りていないせいか、大型の夏きのこが少ない状況でしたが、参加された子供さんの目がいろいろなきのこを発見して、少ないながらも楽しい観察会になりました。きのこごはん、きのこ汁の昼食もおいしく、楽しくいただきました。時間がない中、角先生には、パソコンで特徴的なきのこの紹介をしていただきました。参加者は14名でした。きのこ料理を準備していただいた橋田先生ありがとうございました。

### 採集きのこ

キクラゲ類担子菌門ハラタケ亜門シロキクラゲ綱シロキクラゲ科 (シロキクラゲ科)

1) シロキクラゲ属

ヒダナシタケ類担子菌門ハラタケ亜門ハラタケ綱アンズタケ目アンズタケ科 (アンズタケ科)

2) アンズタケ (杏子の香り 食)

ベニタケ目 Stereaceae ウロコタケ科 (ウロコタケ科)

3) モミジウロコタケ

タマチョレイタケ目 Polyporaceae タマチョレイタケ科 (サルノコシカケ科)

4) ケガワタケ 5) ハチノスタケ 6) カワラタケ 7) ブドウタケ

ハラタケ類担子菌門ハラタケ亜門ハラタケ綱ハラタケ目 Hydnangiaceae ヒドナンギウム科 (キシメジ科)

8) キツネタケ 9) ウラムラサキ

Omphalotaceae ツキヨタケ科 (キシメジ科)

10) モリノカレバタケ 11) モリノカレバタケ属 12) シロホウライタケ属

Resupinataceae シジミタケ科 (キシメジ科)

13) シジミタケ

Marasmiaceae ホウライタケ科 (キシメジ科)

14) ヒメホウライタケ 15) シバフタケ (菌輪 食)

16) ニセホウライタケ

Favolaschiaceae ラッシタケ科 (キシメジ科)

17) クヌギタケ

Agaricaceae ハラタケ科 (ハラタケ科)

18) ハラタケ属

Bolbitiaceae オキナタケ科 (オキナタケ科)

19) コガサタケ

Boletaceae イグチ科 (イグチ科)

20) イグチの仲間

Russulaceae ベニタケ科 (ベニタケ科)

21) ニオイベニタケ 22) ベニタケの仲間

腹菌類担子菌門ハラタケ亜門ハラタケ綱イグチ目 Diplocystidiaceae ディプロシスチジア科 (ツチグリ科) 23) ツチグリ

Sclerodermataceae ニセシヨウロ科 (ニセシヨウロ科) 24) ニセシヨウロの仲間

ハラタケ目 Agaricaceae ハラタケ科 (ホコリタケ科)

25) ノウタケ

子のう菌類子のう菌門クロサイワイタケ目 Xlariaceae クロサイワイタケ科 (クロサイワイタケ科) 26) クロコブタケ

### 参考文献

今関六也・大谷吉雄・本郷次雄編、1988 山溪カラー一名鑑日本のきのこ増補改訂新版 山と溪谷社 東京

今関六也・本郷次雄、1987 原色日本新菌類図鑑 (I) 保育社 大阪

今関六也・本郷次雄 1989 原色日本新菌類図鑑 (II) 保育社 大阪

城川四郎 1996 猿の腰掛類きのこ図鑑 地球社 東京

本郷次雄監修 1994 山溪フィールドブック (10) きのこ 山と溪谷社 東京

幼菌の会編 2001 きのこ図鑑 家の光協会 東京

## 《行事案内》

## ◇ 第400回例会：

## 筑後川観月会

天体観察と星座、お抹茶もあります。昨年引き続き3人の語りべからお話を聴きます。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：9月22日(土) 雨天中止

〔集合・解散〕：19:00・21:00

筑後川防災センターくるめウス

〔参加費〕：300円 定員50名

〔持参するもの〕：筆記用具

〔共 催〕：筑後川まるごと博物館実行委員会

## ◇ 第401回例会：

## ネイチャーゲームと自然観察会

全国いっせいのネイチャーゲームと昆虫と植物の自然観察会を行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：10月21日(日) 雨天中止

〔集合・解散〕：10:00・14:30 高良内幼稚園  
駐車場

〔参加費〕：無料 定員30名

〔持ち物〕：水筒、帽子、筆記用具

〔共 催〕：くるめネイチャーゲームの会  
久留米市農政部生産流通課

## ◇ 第402回例会：

## 高良山キノコ観察会とキノコ野菜カレー

高良山キノコ観察とキノコビンゴゲームを行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：12月2日(日) 雨天中止

〔集合・解散〕：10:00・14:30 高良内幼稚園  
駐車場

〔参加費〕：無料 定員50名

〔持ち物〕：帽子、お茶、筆記用具、マイ箸、マイ皿、スプーン

〔共 催〕：久留米市農政部生産流通課

## ◇ 第403回例会

## 総会と環境講演会と新年会

25年度総会と環境講演会を行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：1月20日(日)

〔集合・解散〕：13:00・17:00

久留米市役所3階会議室

## 《事務局だより》

原発の安全・安心は無くなりました。現在の電力使用に対する暮らしのために優先するのか！そのために国や電力会社は危険とは言えないと繰り返すばかりです。それなのに東北では福島原発の爆発のため多くの人達が放射能から避難するために故郷を追われました。私達この福岡県でもその危険が身近にあるのです。それは玄海原発です。事故に対する反省は全くなく運転再開を目指し、やらせメール事件まで起こしました。

このままでは玄海が第二福島になりかねません。将来の人類、日本、いや地球を守るために原発をなくして欲しいものです。

会員のみなさまへ・・・・・・・・

新入会員を募集しています。お友達や知人の方をお誘い下さい。(中野昭剛)

ホームページもご覧下さい。

<http://kurumenoshizen.net/>

## 1. 会員異動

入会 柳 安徳、 篠田 守(久留米市)

## 2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

## 3. 原稿募集

次号117号は平成25年1月1日発行予定です。原稿のメ切は12月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

## 4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会(定例)は原則として奇数月第1水曜日の19:30~21:30まで、えーるピア2Fで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。(8月29日、11月7日、1月9日)

久留米の自然

平成24年9月1日第116号

発行 久留米の自然を守る会

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田 2320-6

TEL 46-8622 FAX 46-8623 (古賀)

印刷 千年屋印刷

TEL 43-2400 FAX 43-2408